

<言語文化学科>(認定課程： 中学校1種(英語))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修においては、英語運用能力の向上に努めるとともに、英語を学術的視点から見つめる姿勢を確立する。「English for Practical communication」、「English for Discussion and Presentation」、「English for Academic Purposes」などの英語運用系科目の履修を通じ、読むこと、書くこと、話すこと、書くこと、の4技能について基本的運用力の確立と、後期の Semester 留学に向けた準備を行う。基礎科目として学ぶ英語学・英語文学・異文化理解の包括科目の履修を通じては、国際語としての英語の役割やその教育の必要性、さらに体系ある学問として考える姿勢を身につける。
	2 Semester	「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修においては、Semester 留学を必修科目として実施し、前期に習得した英語運用能力と異文化理解に関する基礎的知識を使い、更に英語運用能力の向上に努める。英語と母語との相違点(個性)と類似点(普遍性)、英語圏文化と母文化との相違点と類似点を肌で感じ、そうした多くの実戦経験を通じて、知的好奇心を育む。
2年次	3 Semester	「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修においては、引き続き英語運用能力の向上に努めるとともに、英語力の基礎となる英語学に関する高度な知識を習得し、学問的基礎を確立する。英語運用系科目「Integrated Academic Skills I」の履修を通じては、基本4技能の高度な運用力を確立するとともに、学術研究に必要とされるアカデミック・スキルを錬成する。また各専修に設置される教授言語が英語の学部専門科目を履修するなど、あらゆる機会を通じて英語コミュニケーションを実践する姿勢を身につける。「英語の文構造」、「英語の歴史」などの英語学系の科目の履修を通じては、英語学に関する高度な知識を習得する。 「教育の基礎的理解に関する科目等」については履修が開始され、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想を学び取り、現代の学校教育のあり方を自身の課題として追究するための資質を形成させる。また教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容、教職への道の選択肢を理解し、受講者自身の進路としての教職を真摯にとらえさせ、彼らの将来設計の重要な契機とする。
	4 Semester	「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修においては、引き続き英語運用能力の向上に努めるとともに、英語学以外の英語文学または異文化理解に関する高度な知識を、英語運用に活用できるようにする。「Integrated Academic Skills II」などの英語運用系科目の履修を通じては、更に高度な英語運用力を確立するとともに、学術研究に必要とされるアカデミック・スキルを錬成する。また各専修に設置される教授言語が英語の学部専門科目を履修し、高度な運用力を駆使して英語で十分な意思疎通が図れるようにするとともに、「英語と文法化」、「Topics in English Linguistics」などの英語学系の科目の履修を通じては、英語学に関する高度な知識を使い、ことばを科学的に眺め、その本質を理解しようとする姿勢を身につける。「英語科教育法Ⅱ」の履修においては、英語教育を追究の対象として眺めることの意義について、また英語教育に関する基礎知識を確立すると共に中学校における英語教育の意義や目標について理解する。 「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修では、教育に関する社会的、制度的・経営的事項を内容とした科目において、公教育の役割を正しく理解しその目的に合致した学級経営、学校経営の視点をもつことが目標となる。その上で、幼児・児童及び生徒の心身の発達および学習の過程を主に心理学的知見に基づいて学習し、合わせて障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。この学習を通して、多様な特性をもつ児童生徒を適切に理解できるようになるための基礎を形成する。さらに、教育課程の意義及び編成の方法の学びを通して、教育内容として扱うべき内容と、その意味、さらにその組み立ての原理を学び、授業づくりにおける教師の重要な役割に対する理解を深める。これらの科目の履修を通じて、言語文化学科の専門性の高い内容と教職の実践に求められる知識とを統合的に学修することにより、実践に生かす知識の修得を行うことを目標とする。

3年次	5セメスター	<p>「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修においては、高度な英語運用能力を現実に応用できるよう努めるとともに、英語学、英語文学、異文化理解に関する高度の知識を駆使して、建設的かつ批判的に学問を追究しようとする姿勢を身につける。また、獲得した知識や技術を指導に活かそうとする姿勢を身につける。「音声学と音韻論」などの履修を通じて、言語の音声・音韻体系についてのより専門的な知識を習得し、生徒への音声指導に活かせるようにする。「文学から学ぶ言語文化」などの異文化理解系科目の履修を通じては、異文化コミュニケーションに対する体系的理解を深めるとともに、それを英語の指導に活用する姿勢を身につける。「英語圏の世界文学・文化研究」などの英語文学系科目の履修を通じては、英米にとどまらない英語による文学について理解を深めるとともに、英語を教える者としての立場から英語文学・文化の本質に対する理解を深め、指導に活かす姿勢を身につける。「英語科教育法Ⅰ」の履修においては、英語教育に関する知識を指導案の作成や指導に活用できるようにするとともに、中学校にふさわしい英語教育について主体的に考える姿勢を身につける。また中学校英語教育に関する知識を駆使しながら、自律的に授業改善を行うことができるようにする。</p> <p>「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修においては、教育の方法と技術を学び、必要な教育情報機器及び教材の活用について修得する。また現代の教育に対応する、教科に共通する授業設計の基本原則を学ぶとともに、効果的な授業の技法を学びとる。さらに道徳の授業では、学校の全指導場面で実践されるべき道徳教育を視野に入れた指導のあり方と方法を学ぶ。道徳学習の意義を理解し、道徳的価値の内面化を促す方法について知ることが目標である。また、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性や心身発達等もこの時期に学ぶ。障害特性や学習・発達過程等を理解し、学習上または生活上の困難についての基本的な知識習得や関係機関との連携方法、インクルーシブ教育の考えを踏まえた特別支援教育に関する理念や制度を理解する。</p>
	6セメスター	<p>「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修においては、引き続き高度な英語運用能力を現実に応用できるよう努めるとともに、英語学、英語文学、異文化理解に関する高度の知識を駆使して、自律的にテーマを見つけ研究、研鑽を積み上げる姿勢を身につける。「アメリカ文学・文化研究」などの英語文学系科目の履修を通じては、良質な文学を題材として英語の指導を行おうとする姿勢を身につける。「社会言語学から学ぶ言語文化」などの異文化理解系科目の履修を通じては、コミュニケーションに対する体系的理解を、国際人としての自分のあり方に反映させるとともに、中等教育の場で英語を教える教師としてのあり方について理解を深める。「英語科単元構成論」では、学科で学ぶ英語の専門知識を学習指導要領をもとにしていかに授業に展開するのか、授業を構成するのかについて身につける。また英語教育に関する広範で深遠な知識と教養を活かし、学校を巡るその時々を社会的・文化的文脈に応じて、しなやかに対応できるようにする。</p> <p>「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修では、教育相談の実態と方法を、カウンセリング理解と合わせて学び、多様な問題を抱える現代の児童生徒の実態を理解し、問題に応じてどのような対応の選択肢があるかを知ること目標とする。</p>
4年次	7セメスター	<p>「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修においては、引き続き高度な英語運用能力を現実に応用できるよう努めるとともに、英語学、英語文学、異文化理解に関する高度の知識、見識を指導に活かせるようにする。また、「実用英語運用法」などの英語運用系科目の履修を通じては、専門性や重要度の高い言語運用の場においても、適切かつ効果的に高度な運用力が発揮できるようにする。「ヨーロッパ文化研究」などの異文化理解系科目の履修を通じては、キリスト教文化などを切り口とし、他者への寛容さを養い、多種多様な文化的背景を持った人々と交流する意義を知り、その知見を活かした英語の指導を行おうとする姿勢を身につける。言語と文化や社会との関わりについて、それぞれの高いレベルでの知識を融合させながら、独自の見識を身につけ、ゼミ指導等を通じて論考としてもまとめられるようにする。</p> <p>「教育の基礎的理解に関する科目等」では、生徒指導及び進路指導の理論と方法を学び、生徒指導面での教師の役割は生徒の問題行動への対応にとどまらず、発展的な適応も視野に入れるべきであり、進路指導も含めた統合的で展望のある生き方の指導の手立てと基本の考え方を身につける。</p>
	8セメスター	<p>「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修においては、引き続き高度な英語運用能力を現実に応用できるよう努めるとともに、英語学、英語文学、異文化理解に関する高度の知識、見識を指導に活かし、それを自律的に改善できるようにする。「文化科学研究」などの履修を通じて、文化に関する問いを異文化理解に留まらず幅広い学術分野に共通する問題意識として考察する。更にこれまでに学習した内容を英語教師の立場から俯瞰的に捉え直し、卒業研究としてまとめ、分かりやすい言葉で伝えられるようにする。</p> <p>「教育の基礎的理解に関する科目等」においては、特別活動指導として教科学習以外に生徒が育つ幅広い活動が学校には存在し、それを統合的に結んでいくことの意義と方法を事例に即して理解する。また学校教育活動全体における特別活動の意義や内容及びその指導のあり方、各教科を横断する総合的な学びや特別活動と結びついた体験的・探求的な、総合的な学習の重要性を理解する。教職の総まとめとなる「教職実践演習(中・高)」は、教師への旅立ちの確実な準備の機会としての科目である。英語科の教員として必要とされる知識や、教育実践力が身に付いているかどうか、受講生各自の、これまでの学習内容の修得を振り返り、不足している側面を補い、学習成果を実践と結びつける演習的活動を通して、実践的指導力の基礎を固める。また学級経営や学校における人的・物的マネジメントなどの広い視点から、教育活動を考えることができることも目標とする。</p>
	通年	<p>「教育の基礎的理解に関する科目等」として「教育実習Ⅰ」を開講する。この科目では、十分な事前指導ののちに教育現場に参加することを通して、授業実践の基本的な力量を身に付けると共に、教科指導にとどまらない、教師としての職務について体得する。教科指導においても、あらゆる場面に対し適切に対応し、自律的に指導法を改善できるようにすることを目指す。また、生徒観を磨き、教師という職業の実態を理解し、教職への意欲を確かなものにする。この達成を確かなものにするために、事後指導を行う。</p>

<言語文化学科>(認定課程： 高等学校1種(英語))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	1 Semester	「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修においては、英語運用能力の向上に努めるとともに、英語を学術的視点から見つめる姿勢を確立する。「English for Practical communication」、「English for Discussion and Presentation」、「English for Academic Purposes」などの英語運用系科目の履修を通じ、読むこと、書くこと、話すこと、書くこと、の4技能について基本的運用力の確立と、後期のセメスター留学に向けた準備を行う。基礎科目として学ぶ英語学・英語文学・異文化理解の包括科目の履修を通じては、国際語としての英語の役割やその教育の必要性、さらに体系ある学問として考える姿勢を身につける。
	2 Semester	「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修においては、セメスター留学を必修科目として実施し、前期に習得した英語運用能力と異文化理解に関する基礎的知識を使い、更に英語運用能力の向上に努める。英語と母語との相違点(個性)と類似点(普遍性)、英語圏文化と母文化との相違点と類似点を肌で感じ、そうした多くの実戦経験を通じて、知的好奇心を育む。
2年次	3 Semester	「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修においては、引き続き英語運用能力の向上に努めるとともに、英語力の基礎となる英語学に関する高度な知識を習得し、学問的基礎を確立する。英語運用系科目「Integrated Academic Skills I」の履修を通じては、基本4技能の高度な運用力を確立するとともに、学術研究に必要とされるアカデミック・スキルを錬成する。また各専修に設置される教授言語が英語の学部専門科目を履修するなど、あらゆる機会を通じて英語コミュニケーションを実践する姿勢を身につける。「英語の文構造」、「英語の歴史」などの英語学系の科目の履修を通じては、英語学に関する高度な知識を習得する。 「教育の基礎的理解に関する科目等」については履修が開始され、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想を学び取り、現代の学校教育のあり方を自身の課題として追究するための資質を形成させる。また教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容、教職への道の選択肢を理解し、受講者自身の進路としての教職を真摯にとらえさせ、彼らの将来設計の重要な契機とする。
	4 Semester	「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修においては、引き続き英語運用能力の向上に努めるとともに、英語学以外の英語文学または異文化理解に関する高度な知識を、英語運用に活用できるようにする。「Integrated Academic Skills II」などの英語運用系科目の履修を通じては、更に高度な英語運用力を確立するとともに、学術研究に必要とされるアカデミック・スキルを錬成する。また各専修に設置される教授言語が英語の学部専門科目を履修し、高度な運用力を駆使して英語で十分な意思疎通が図れるようにするとともに、「英語と文法化」、「Topics in English Linguistics」などの英語学系の科目の履修を通じては、英語学に関する高度な知識を使い、ことばを科学的に眺め、その本質を理解しようとする姿勢を身につける。「英語科教育法II」の履修においては、英語教育に関する知識を指導案の作成や指導に活用できるようにするとともに、高等学校にふさわしい英語教育について主体的に考える姿勢を身につける。また高等学校英語教育に関する知識を駆使しながら、自律的に授業改善を行うことができるようにする。「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修では、教育に関する社会的、制度的・経営的事項を内容とした科目において、公教育の役割を正しく理解しその目的に合致した学級経営、学校経営の視点をもつことが目標となる。その上で、幼児・児童及び生徒の心身の発達および学習の過程を主に心理学的知見に基づいて学習し、合わせて障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。この学習を通して、多様な特性をもつ児童生徒を適切に理解できるようになるための基礎を形成する。さらに、教育課程の意義及び編成の方法の学びを通して、教育内容として扱うべき内容と、その意味、さらにその組み立ての原理を学び、授業づくりにおける教師の重要な役割に対する理解を深める。これらの科目の履修を通じて、言語文化学科の専門性の高い内容と教職の実践に求められる知識とを統合的に学修することにより、実践に生かす知識の修得を行うことを目標とする。

3年次	5 Semester	<p>「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修においては、高度な英語運用能力を現実に応用できるよう努めるとともに、英語学、英語文学、異文化理解に関する高度の知識を駆使して、建設的かつ批判的に学問を追究しようとする姿勢を身につける。また、獲得した知識や技術を指導に活かそうとする姿勢を身につける。「音声学と音韻論」などの履修を通じて、言語の音声・音韻体系についてのより専門的な知識を習得し、生徒への音声指導に活かせるようにする。「文学から学ぶ言語文化」などの異文化理解系科目の履修を通じては、異文化コミュニケーションに対する体系的理解を深めるとともに、それを英語の指導に活用する姿勢を身につける。「英語圏の世界文学・文化研究」などの英語文学系科目の履修を通じては、英米にとどまらない英語による文学について理解を深めるとともに、英語を教える者としての立場から英語文学・文化の本質に対する理解を深め、指導に活かす姿勢を身につける。</p> <p>「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修においては、教育の方法と技術を学び、必要な教育情報機器及び教材の活用について修得する。また現代の教育に対応する、教科に共通する授業設計の基本原則を学ぶとともに、効果的な授業の技法を学びとる。特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性や心身発達等もこの時期に学ぶ。障害特性や学習・発達過程等を理解し、学習上または生活上の困難についての基本的な知識習得や関係機関との連携方法、インクルーシブ教育の考えを踏まえた特別支援教育に関する理念や制度を理解する。</p>
	6 Semester	<p>「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修においては、引き続き高度な英語運用能力を現実に応用できるよう努めるとともに、英語学、英語文学、異文化理解に関する高度の知識を駆使して、自律的にテーマを見つけ研究、研鑽を積み上げる姿勢を身につける。「アメリカ文学・文化研究」などの英語文学系科目の履修を通じては、良質な文学を題材として英語の指導を行おうとする姿勢を身につける。「社会言語学から学ぶ言語文化」などの異文化理解系科目の履修を通じては、コミュニケーションに対する体系的理解を、国際人としての自分のあり方に反映させるとともに、中等教育の場で英語を教える教師としてのあり方について理解を深める。「英語科単元構成論」では、学科で学ぶ英語の専門知識を学習指導要領をもとにしていかに授業に展開するのか、授業を構成するのかについて身につける。また英語教育に関する広範で深遠な知識と教養を活かし、学校を巡るその時々での社会的・文化的文脈に応じて、しなやかに対応できるようにする。</p> <p>「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修では、教育相談の実態と方法を、カウンセリング理解と合わせて学び、多様な問題を抱える現代の児童生徒の実態を理解し、問題に応じてどのような対応の選択肢があるかを知ること目標とする。</p>
4年次	7 Semester	<p>「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修においては、引き続き高度な英語運用能力を現実に応用できるよう努めるとともに、英語学、英語文学、異文化理解に関する高度の知識、見識を指導に活かせるようにする。また、「実用英語運用法」などの英語運用系科目の履修を通じては、専門性や重要度の高い言語運用の場においても、適切かつ効果的に高度な運用力が発揮できるようにする。「ヨーロッパ文化研究」などの異文化理解系科目の履修を通じては、キリスト教文化などを切り口とし、他者への寛容さを養い、多種多様な文化的背景を持った人々と交流する意義を知り、その知見を活かした英語の指導を行おうとする姿勢を身につける。言語と文化や社会との関わりについて、それぞれの高いレベルでの知識を融合させながら、独自の見識を身につけ、ゼミ指導等を通じて論考としてもまとめられるようにする。</p> <p>「教育の基礎的理解に関する科目等」では、生徒指導及び進路指導の理論と方法を学び、生徒指導面での教師の役割は生徒の問題行動への対応にとどまらず、発展的な適応も視野に入れるべきであり、進路指導も含めた統合的で展望のある生き方の指導の手立てと基本の考え方を身につける。</p>
	8 Semester	<p>「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修においては、引き続き高度な英語運用能力を現実に応用できるよう努めるとともに、英語学、英語文学、異文化理解に関する高度の知識、見識を指導に活かし、それを自律的に改善できるようにする。「文化科学研究」などの履修を通じて、文化に関する問いを異文化理解に留まらず幅広い学術分野に共通する問題意識として考察する。更にこれまでに学習した内容を英語教師の立場から俯瞰的に捉え直し、卒業研究としてまとめ、分かりやすい言葉で伝えられるようにする。</p> <p>「教育の基礎的理解に関する科目等」においては、特別活動指導として教科学習以外に生徒が育つ幅広い活動が学校には存在し、それを統合的に結んでいくことの意義と方法を事例に即して理解する。また学校教育活動全体における特別活動の意義や内容及びその指導のあり方、各教科を横断する総合的な学びや特別活動と結びついた体験的・探求的な、総合的な学習の重要性を理解する。教職の総まとめとなる「教職実践演習(中・高)」は、教師への旅立ちの確実な準備の機会としての科目である。英語科の教員として必要とされる知識や、教育実践力が身に付いているかどうか、受講生各自の、これまでの学習内容の修得を振り返り、不足している側面を補い、学習成果を実践と結びつける演習的活動を通して、実践的指導力の基礎を固める。また学級経営や学校における人的・物的マネジメントなどの広い視点から、教育活動を考えることができることも目標とする。</p>
	通年	<p>「教育の基礎的理解に関する科目等」として「教育実習Ⅰ」を開講する。この科目では、十分な事前指導ののちに教育現場に参加することを通して、授業実践の基本的力量を身に付けると共に、教科指導にとどまらない、教師としての職務について体得する。教科指導においても、あらゆる場面に対し適切に対応し、自律的に指導法を改善できるようになることを目指す。また、生徒観を磨き、教師という職業の実態を理解し、教職への意欲を確かなものにする。この達成を確かなものにするために、事後指導を行う。</p>